

## 滋賀県地域情報化推進会議 平成29年度第2回ICT利活用検討部会概要

日時 平成29年11月30日(木)10:00～11:30  
場所 滋賀県農業教育情報センター 1階 生活企画相談室  
出席者 別紙のとおり

### 1 座長あいさつ（要旨）

普段、挨拶において自社の紹介をすることはないのだが、今回直近にエポックメイクがあったので、少し時間をいただいて御報告といった形でお知らせをさせていただく。

実は、ASPIC（ASP・SaaS・IoT クラウド コンソーシアム）が主催するクラウドアワード2017のベストソリューション賞を受賞することができた。クラウドサービスといっても様々あるのだが、その中で弊社も長くクラウドに携わってきて、ようやく一つの形として芽吹いたのではないかと感じる。

さて、今回のICT利活用検討部会では、滋賀県が来年度から推進する（仮称）滋賀県ICT推進戦略について部会員の皆様の自由闊達な御意見を頂戴できればと考えている。

世界レベルで見ると、例えば中国だと、屋台でも二次元バーコードを使って決済が可能と聞いている。これをフィンテックと呼んで差し支えないのかわからないが、事実日本だと法的規制など様々な壁もある中で、そういうものを一旦横において、滋賀県だからこそできること、地の利を活かすということを念頭に、今回のICT推進戦略を議論いただけたらと考えている。

滋賀県は、琵琶湖があるので、遮るものがない。昔はリング状のネットワークを作るという発想もあったが、現在はそういったものを作る必要はなく、例えば何拠点か琵琶湖を無線で繋ぐことで、良き防災効果につながるのではないかと考えている。

要は実現可能か不可能かではなく、一つの見方として、滋賀県ならではの方向性を出すことが重要と考えている。本日は既存の形だけでなく、将来、5年先ほどを見据えたスタートラインの検討ということなので、多少夢物語的なものも踏まえて、皆様の御意見がいただけるとありがたいと考えている。よろしく御願いたい。

### 2 議題

#### （１）（仮称）滋賀県ICT推進戦略素案について

事務局より資料１に基づいて（仮称）滋賀県ICT推進戦略素案の説明を行った。

##### ○座長

多岐に渡る領域が戦略素案として謳われているのは理解できた。そうは言っても、なにか議論すれば、結論をきっちりと導けるかの道筋が見えていない。

まずは、ただいまの事務局の説明をお聞きいただいた上で、説明内容について御質問がありましたら御願いたい。

##### ○部会員

まずは、素案の概要版について申し上げたい。まず、項番１の「はじめに」の中に、「指針として、滋賀県ICT推進戦略を策定」とあり、また、右にある項番２「現状と課題」の中にも「滋賀

県行政情報化推進指針」とある。指針という言葉が重なって記載されており、混乱を招きやすい。「はじめに」の中は概念的に書かれているということであれば、指針という言葉을避けて、「戦略として」とされたほうがわかりやすく、混乱を招くこともないのではないかな。

あともう一点、これは質問になるのだが、「滋賀県行政情報化推進指針」の下に別段実施計画は存在せず、指針そのものが計画であるという認識でよいかな。

○事務局

指針そのものが計画であるという認識で問題ない。「滋賀県行政情報化推進指針」は主に県庁内の情報化をどう進めるかということを決めたものである。

○部会員

承知した。今後、概要の右下に書かれているように、別途作成される「滋賀県ICT推進戦略実施計画」に基づき、計画として進めていかれるということであらうかな。

○事務局

おっしゃるとおりである。

○部会員

細かい話にはなるが、できたら標題に「滋賀県ICT推進戦略」とあることから、「滋賀県ICT推進戦略実施計画」の文字を大きくして記載してはどうかと思う。

これにより、戦略と実施計画を明確に切り分けたほうがよいのではないかと考える。

○座長

その他、なにか御意見あるか。

○部会員

せっかくの機会であるので、発言させていただく。御説明いただいた素案には非常に多くのテーマが記載されており、これを全て実施しようとする、と、すぐ大変ではないかというのが実感である。

私は素案に記載されている光ファイバーやスマートフォンの環境以外にも滋賀県の特徴はたくさんあるのではないかと考えている。大きな特徴として捉えているのは、市民活動が他の県に比べて活発なのではないかということである。NPOの数も多く、特に環境面等で積極的に活動されているように見受けられる。ただ、残念なことにそういった方々はIT方面に強くない方が多く、上手く繋がることができず、次の活動にそこを活かせないことも多いので、そういった点についてITを活用して他の県にはないものにしていくことができるのではないかな。

であるので、指針として作成される中には、様々なテーマに触れていただくことも必要だとは思うが、まずはこの分野をやりきるんだ、滋賀県の特徴としてこの分野が重要だといったところを打ち出していきたいと考えている。

また、今の世の中では、様々なことが細分化されており、ITだけでは如何ともし難い様々な問題や新しい技術が出てきている。そういったものを全てを追いかけることは不可能だと考えるので、強みを絞り込み、その部分を伸ばすような戦略にしていなければありがたいと思う。

その他、素案には大手の企業様や大学との連携といった文言も盛り込まれていたが、ベンチャー育成であるとか、先ほど申し上げたNPOとの関わり、市民との関わりをどう考えていくのか、といったところをもう少し具体的にしていいただけるとありがたい。

あとで説明があるかと思うが、1月に開催予定のイベントにおいてCode for Japanの方が滋賀県に来られて講演されるとのことである。総務省のほうでもシビックテックというところにかなり注目されている。逆に言えば、国においてもそこに期待されている部分が多分にあると感じている。各種の専門委員会においてもそういった市民の方々が参加されて、著名な先生方と議論されている事例もある。滋賀県として今申し上げた点について、もう少し踏み込んだ対応をとっていただけるとありがたい。

最後に、滋賀県地域情報化推進会議の役割について確認をさせていただきたい。様々な視点があって、県としてこのように進めていく、主役は県民であると記載があるが、なかなか私も含めてこういった指針、戦略の策定、重点的な取り組みについて、意見を申し上げる場所がない。また、この場で具体的な話を申し上げても、なかなか御理解いただきにくいところがある。

であるので、滋賀県内にもIT関係、分野において様々な知見を持った方がまだまだ多くいらっしゃると思うので、その考え、アイデアを汲み上げていただくような仕組みがあればいいなと感じた。長くなったが以上である。

#### ○部会員

私も先ほどの御意見と同じ視点の話をさせていただくが、1枚ものの概要版の下のほうで、項番7「県民に期待される役割」としてNPO、地域活動を通じての貢献と記載があるが、これは非常に大事だと考えている。

戦略の実施計画にどういった形で反映するかという課題はあるにせよ、実施計画内にそういった概念を明確に盛り込んでいただければと思う。

#### ○座長

これまでの御意見を受けて、事務局より何か回答いただけることはあるか。

#### ○事務局

まず、最初に御意見いただいた、ベンチャー育成や市民との関わりをどのように進めるかということについて回答させていただく。このことについては、ICT推進懇話会の中でも委員の先生方から御意見いただいております。県の役割の説明で少し触れさせていただいたところではあるが、各主体による連携の促進や調整、助言といったところで、様々な実証実験等をベンチャーの方が実施したいとなった時はどんどん実施いただけるような環境を作っていく。

また、ベンチャーが育つような土壌を作っていくといった御意見もいただいております。また、市民活動、NPO含めた地域団体のところで、もう少しICTの活用を進めていただくことで今まで参加できなかった方が参加できるようになる、ということも伺ったので、様々な人が参加することによって更に地域が活性化するという点について、具体のところを盛り込んでいかなければいけないと考えている。

現在、5つの重点戦略に記載している具体の施策については、特に県が取り組む施策と書いているものとしては、ある程度予算化を予定しているものしか記載していない。これは我々としても、予算の裏づけのないものを記載するわけにはいかないという想いのもと、そのような対応を取っているものである。具体の施策についても今後方向性を示してどんどん盛り込んでいきたいと考えている。

特に、先ほど御意見いただいた、滋賀県ICT推進戦略実施計画、これについては、毎年定

めるものであり、具体的な事業の内容や、予算、目標というものもきっちり定めていきたい。ここま  
で申し上げた方向性で進めていきたいと考えている。

○座長

事務局の考え方は理解できた。その他御意見ないか。

○座長

それでは、私から質問させていただく。素案の14ページに家庭での活用として、「子どもが熱を  
出したので役所に申請に行けない」と事例があるが、こういった事例は子育ての母親にとって身  
近なものであるのか。こういう文言で質問として用意されるのが適切であるのか疑問がある。

どのような推移でこういった質問・事例を纏められたか、教えていただきたい。

○事務局

この質問・事例は、何人かの方に現在どういったことで困っているかヒアリングした結果、回答  
のあった意見を採用し、作成したものである。おっしゃったように中には不適切な事例があるかも  
しれない。

ただ、これが最終的なものではなく、県庁内においても各部署に確認しながら、これからブラッ  
シュアップするという作業が必要となってくる。そういう意味では、この場においても、この事例は不  
適切ではないのか、ということをお意見いただけたら、それを検討し最適な表現に修正していき  
たいと考えている。

○座長

この事例は、家から出ることができないので、不便という意味で書かれたのかと思うが、言葉が  
すぐに頭に入ってこなかったところである。

この戦略は、提示せざるをえないためか、非常に多岐に渡る内容である。このため、ポイントを  
絞って質問させていただくが、重点戦略1、2、3、4・・・とあるが、一定優先順位を考えられた  
上で、この順序で記載いただいているという理解でよいのか。

○事務局

おっしゃる趣旨においての優先順位はない。重点戦略一つ一つがどれも大切だと考えている。

ただ、重点戦略1の中でどれを優先的に進めていくか、という意味での優先順位はあるのか  
など考えている。そのあたりについては、ここでは絞りきれなかったもので、実施計画においてお示し  
したいと考えている。

○座長

承知した。その他、御意見あるか。

○部会員

様々な県でこういった戦略が作られているかと思うが、特に滋賀県の気に入っている方針はど  
れか。特に他の県にはない、滋賀県ならではの特徴というのはどこになるのか。

○事務局

おっしゃるように、各都道府県において、戦略なり計画を作っておられる。だいたい作られた時  
代を反映しているのが常になっており、例えば他の県だとICTしか記載がないところ、当県ではデ  
ータ利活用も併せて記載している等、ニーズ等一定反映させていただいていると考えている。

その他、これは地域産業を再創造するという点にも関わりのあるテーマだと理解しているが、

人材育成の項目については、今年4月から滋賀大学にデータサイエンス学部が新設されるなど、データに関する専門教育が充実しているので、その人材を地域の中で回していきたいという考えを持っている。そして、データに関する専門教育を受けた人材を地域の中で回すための基盤ということで、重点戦略の中でもデータ活用基盤というところを、しっかりと記載していきたいと考えている。

特徴というか、どこが滋賀県らしさかというと、そこははっきりしたものはない。だが、背景を見た時に日本全国そうではあるが、滋賀県でも人口減少局面に入ってきており、特にモノづくり県である滋賀県においては、生産人口が減少すると大変なことになると認識している。そこはICTなりデータを利用してしっかりとカバーしていけないといけない。このため、それを担う人材や、人材を活用するようなデータ活用基盤をしっかり作っていかなければいけないということを全体として考えている。

#### ○部会員

重点戦略そのものに総花的な部分が必要であることは、理解できる。滋賀県としてどの戦略を、実際にプライオリティをつけて実施していくかを定めるのは実施計画だと考える。

先ほど事務局の説明をお聞きして、実施計画は単年度更新と理解したが、一般的に複数年計画ではないのか。

#### ○事務局

実施計画の中は、大半が事業毎に、複数年のもの、単年度のものが混在することになると考えている。お示しの仕方としては毎年それを更新していき、更新したものを実施計画として発表する形としたい。

その中で、ある事業については今年度から3ヶ年というスパンの刻み方があるかもしれない。

#### ○部会員

一般的には実施計画、例えば3ヶ年計画としたものを作って、進捗状況等をレビューしながら進めていく、やれるのか、やれないのかということを検討する。そういう観点から、できるだけプライオリティの高いものは実施計画の初年度からやっていくという形式だと考えていた。

実際、5つの重点戦略があるので、このうち実施計画としてどれを優先して着手していくかについては、実施計画においてきちんと指針を示していただければと思う。

#### ○座長

その他御意見あるか。

#### ○部会員

ここまでいくつかお話があった中で、非常に感じていることがある。最初にお話のあった滋賀県内におけるNPOの活動、ネットワークについてだが、確かに現状、存在するし、活動されていると思う。だが、ICTを有効活用して活動されれば、これまでより遥かに、その分野において滋賀県が特色・存在感を出していける部分ではないかと思う。その部分について、他の部会員からも先ほど指摘があったのではないかと理解している。

また、戦略素案を見る限り、5つの重点戦略があったとしても金太郎飴みたいなもので、滋賀県が実施せず、仮に他の都道府県が実施したとしても同じ結果にしかならない。やっているという感じを出しているだけにしか見えない。

これだと、忙しい中、会議に出席くださっている方からみて、非常につまらない結果にしかならないのではないかと想像できる。

できるなら、結果 1 年後にこうなりました、3 年後に少し胸が張れます、というレベルの滋賀県らしさのあるものを出していただきたい。そのための材料がないわけではない。例えばNPO等、個々の活動の部分、資料の最後に小さい字で「NPO・地域活動を通じての貢献」とあるが、これが結構、滋賀県において活発に活動されているという部分であるので、ここをクローズアップされてはいいかと思う。

#### ○部会員

オブザーバーとして出席している懇話会でも、滋賀県の強み、比較優位、独自性は要望にあがっていたと思うし、かくいう私もその旨の発言をその場でさせていただいた。

もう一度、強み、弱みを分析して、どこで勝負するのか、それは戦略部分というより、先ほどの話であれば、実施計画で反映すべきことなのかかもしれない。

やはり行政なので、ひととおりやらなければいけないことは、総花的、網羅的にやらないといけない部分は一方でありながら、その中でやはり独自性、比較優位部分が見えてこないというのが現状であるかと思うので、今後の進め方としてどのようにされるかが課題だと思う。

是非、今後期待したいと考えているので、修正等よろしく御願いたい。

#### ○座長

それでは、私のほうからもう 1 点質問させていただく。

今回の素案は、滋賀県のICT推進戦略として進めていただいている。法的には県は計画を作成しなければならないが、市町に関してはそこまでは求められていないと聞いている。

そこで、今回県の推進戦略が完成形として提示された際に、市町としてどういう受け取り方をされるのか。また、連携ということは意識されているのか。もちろん、過去の事例を基にというより、未来のことになるので難しいとは思いますが、そのあたり伺いたい。

#### ○部会員

正直な話を申し上げると、県のレベルでこういった戦略を作っていただいて、それを市町に落とし込んだときに、全部実施できるわけがないというのが正直なところである。県として様々な方針を持っておられる中で、市町に落としこんだときに、この分野は、積極的に取り組んでいこうであるとか、そういった使い道はあるかと思う。

例えば、自動運転などは、公共交通が現状あるものの利用者が少ないという課題を抱えている現状にあって、公共交通を止めた際の代替移動手段の一つとして、考えられるのではないかな。確かに現在の技術レベルだと、まだまだなので、バスの代わりにワゴン車を買って、それを運行することでコストを落とそうとする等の対応になるのだが、将来的には自動運転で言えば、人は不要、車さえ確保できればよいというメリットも出てくる。そういった点で県とうまく連携できればいいと考えている。

最終的に県全体でのイメージといったものと、各市町レベルに落とし込んだ時の問題・課題の解決方法がマッチしていけばよいと考えている。

#### ○座長

その他御意見あるか。

#### ○部会員

官民のデータの共有基盤であるとか、また、オープンデータのカテゴリでいうと、県域で一つの統合的なサイトを作るであるとか、仮にそういったものが存在すれば、各市町がそこに参加するという、そういったレベルの連携は十分可能だと考える。

ただ、全てができるわけではないので、できるもの、できないもの、を切り分けていく必要はある。

#### ○座長

県のほうからも、一度、県域で一つのことを各市町一体となってやりましょうと、ある意味では導きのようなものを、やってみてはどうか。

表現としては、まずは、計画レベルの事項ということになるかもしれないが、一度検討いただきたい。

#### ○部会員

先ほどから、滋賀県の強みということで、改めて資料を見て、また、これまでの様々な方の御意見も踏まえて考えていた。

このことは繰り返し言っている気もするが、民間からみて、気付けば様々なICT分野のモノを開発していこうとした場合、結果的に気付けば新幹線に乗っていたり、飛行機にのっていたり、滋賀県に留まることはなく、いつも通過してしまっているのはなぜだろうと思う。

資料に「知の集積」とあるが、こういう会合の中で、各大学様なり、企業様にお会いするが、実際に具体的な事例と言うか成果に至らない。

実証していこうと思ったときに、まだまだICT化が及んでいないNPOの方達もたくさんいて、試す場はたくさんあると思うのだが、まず繋がるきっかけができていないというのが一番の課題と感じる。

中身の話もあるだろうが、きっかけづくりができるような、情報交換ができるような場の提供からスタートできないのかなと思う。

結局集まる場は東京のビッグサイトやインテックス大阪といった展示会場で、そこに行くまでの交通費に相当なお金を払っている気がするので、その分をこちらに使えば、時間も節約できるし、色々なことができるのではないかと考えている。

#### ○座長

時間の関係もあるので、特になければ次の議題に移りたい。

この後、パブリックコメントも用意されているということで、なかなかそこに意見具申というのは憚られる面もあるかもしれないが、一つの制度として存在する以上、この場でお感じになったことは、そういうところを通じてでも御意見を具申いただければと思う。

それでは、このあたりで（仮称）滋賀県ICT推進戦略素案に対する御意見具申について区切らせていただくがよろしいか。

#### ○事務局

今、座長がおっしゃったように年明け早々にはパブリックコメントを予定しているが、本日をお配りした資料は、分厚いもので、すぐに読みきれものではないかと思う。

もしお時間あるようであれば、後日お手すきの際にご確認等いただけたらありがたい。その上で、

いつでも構わないので、事務局のほうに御意見なり、ご要望いただければありがたい。

本日いただいた御意見についても反映していきたいと考えているし、今後いただいた御意見についても同様に考えている。

○部会員

要望だが、これだけの分量のものを一般の方がご覧になると大変だと思う。もう少しスライド数が少なめのもので、簡単に見て、おおよそ理解できる資料を作っていただく等、ご配慮いただければありがたいと考えるがどうか。さすがに5分で理解できるレベルものとはまでは言わないが、見てわかる図版版のようなものをご用意いただけるとありがたい。

○事務局

最終的にまとまった段階で、そういったものを作成する考えはある。

ただ、現時点においては、この素案が日々刻々と変化していることもあり、作成は難しいと考えている。特に各御専門のところを分野毎に重点戦略として分けているので、そういう部分を重点的にご確認いただければありがたいと考える。

○座長

では、資料にもあるとおり次の議題に移る。

(2) 各WG活動報告（中間報告）

滋賀県モノづくり振興課より資料2に基づいて、IoT企画WGの活動報告を行った。

○座長

ただいまの説明に対して、補足含めて何か御意見等あるか。

○部会員

IoTを推進していこうという時は、1社なり、1自治体がやろうとやってできるものではないので、様々なところの知恵を結集して作り上げていくものになる。具体的な案件の部分も出てきつつはあるのだが、推進していこうとすると、すぐ壁にぶち当たるもの事実である。

そのあたり皆様の協力や力を結集して滋賀県らしいものができればいいと考えて進めている。

○座長

その他、何か御意見等あるか。

○座長

特に無いとのことなので、引き続きデータ利活用WGの報告を事務局より御願います。

滋賀県情報政策課より資料3に基づいて、データ利活用WGの活動報告を行った。

○座長

ただいまの説明に対して、補足含めて何か御意見等あるか。

○座長

データ利活用WGは、戦略といい意味でリンクし、オープンデータ活用を展開いただく一つの拠り所となると思うので、今後とも積極的な活動を御願いたい。

○座長

他に何か御意見等あるか。



○座長

特に御意見ないとのこと、また予定の時間となっているので、これで本日予定していた議題は終了とさせていただきます。

進行を事務局にお返しする。

3 その他

事務局から資料4に基づいて、近畿情報通信協議会が主催し、滋賀県ならびに当推進会議が共催する、地域IoT実装推進セミナー オープンデータをもとに新たな産学官連携を目指した「データアカデミー i n 滋賀」についてお知らせがあった。

○事務局

本日は長時間にわたり御議論いただき、感謝申し上げます。これにて部会を終了させていただきます。

以上